

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3 年次生 川原 菜々香

1. はじめに

私は国際交流基金の助成を受け、2019 年 8 月 18 日から 8 月 25 日までの約 1 週間、バンクーバーサマープログラムに参加しました。ホームステイをしながら、午前中は医療英語レッスンを受け、午後はゲストスピーカーの話を聞いたり医療施設を見学したりしました。

2. 語学学校

Oxford International という学校に 5 日間通いプログラム参加者の 14 人で医療英語レッスンを受けました。英文法や医療に関する英単語などの基礎を学び、それを元にプレゼンテーションを行ったり、カナダでの医療事情を元にディスカッションをしたりと、毎日充実した授業内容でした。先生はチャーミングな方で私たち一人ひとりに丁寧に接してくださり、授業もわかりやすく英語の学習意欲がより高まりました。



3. 医療施設見学、ゲストスピーカー講義

医療施設見学では、病院、血液検査施設、超音波検査施設、クリニック、薬局の五ヶ所を見学し、現地で働く薬剤師とナースプラクティショナーをゲストスピーカーとして話を聞きました。

日本の医療制度は 3 割の医療費の支払いとフリーアクセス制度があるのに対して、カナダの医療制度は、診察料が原則無料で、緊急時以外は家庭医かウォークインクリニックの医師による診察を受けます。私たちが訪問したイェールタウンにあるメインランドクリニックは家庭医を持たない人が利用する医療機関で、日本語対応もしているため日本人も安心し

て利用できるし移民者が多いバンクーバーならではだと思いました。

また、カナダでは2018年からマリファナが合法化されたことからわかるように、依存性薬物の使用者がとて多く薬局の強盗対策が強化されているそうです。日本人の薬剤師の業務と比較して依存性薬物の扱いは最も大きな違いだと感じました。

ゲストスピーカーとして話を聞いたナースプラクティショナーとは、医学診断と治療のできる高等看護師のことで家庭医と同等の仕事ができ、日本にはない職業でした。一人当たりの診察にかかる時間が医者よりも長く、薬物依存者やシェルターに住む人など幅広い患者に対応しているそうです。

見学や講義を通してカナダの医療の制度や業務の違い、背景など様々なことを知り、日本の医療について考える良い機会となりました。

4. ホームステイ

私がホームステイしたのはバーナビーというバンクーバーの隣町で学校からバスで30分ほどの距離にある家でした。ホストマザーのRosanaは家で仕事をしながら留学生を受け入れていて、私たち以外にもパナマと日本からの留学生と一緒に生活しました。ホストマザーの作る料理はとて美味しく、家に帰って一緒に夕食を食べるのが毎日の楽しみでした。夕食の時は今日あったことをみんなでたくさん話しました。一緒に住む留学生は本当に上手で私もこんな風に話せるようになりたいと思いました。私たちが放課後に観光に行って夕食の時間に間に合わない日は夕食を次の日のランチにしてくれたり、近くに住むマザーの



姉妹とその家族やマザーの友達を紹介してくれたりととて愛情を持って接してくれました。短い滞在期間だったので帰る時はとて寂しかったです。

5. 観光

私が行った時期の日の入りの時刻は 20 時ごろだったので放課後からの観光だけでなく、夕食後にも出かけることができました。放課後は大葉の何人かでガスタウンやグランビルアイランドで買い物をしたり、みんなでイングリッシュベイビーチへサンセットを見に行ったりととても充実していました。夕食後は少しバスに乗って町のドラッグストアやスーパーやカフェなどに行きその地域の雰囲気を楽しみました。



6. おわりに

初めての海外、初めてのホームステイで、行く前はとても緊張していましたが、この1週間は毎日がとても刺激的で貴重な体験ばかりでした。英語に耳が慣れてきた頃に帰国で、2週間以上は滞在したかったという気持ちもありますが、英語の学習へのモチベーションが上がりました。カナダの文化や考え方の違いを知って、日本をもっとよく知るきっかけにもなりました。

このプログラムの企画や支援をしてくださった皆様に深く感謝いたします。